

1. 概要

3分野24施策の平成29年度実施内容について、各検討グループ幹事より説明、意見交換を行った。併せて、江北町と武雄市よりタイムライン作成状況について説明が行われ、成果として職員の防災意識が高まったことが報告された。

2. 実施状況

○日 時：平成30年2月15日（木）

○場 所：武雄河川事務所3階 会議室

○出席者：学識者（3名）、各市町、民間企業、佐賀県、佐賀地方気象台、佐賀国道事務所、筑後川河川事務所、武雄河川事務所
関係機関約50名参加

3. 議事内容

①3分野24施策の取組みについて（各検討グループ幹事より説明）

- ・佐賀県消防防災課、佐賀国道事務所・佐賀県道路課、筑後川河川事務所、武雄河川事務所

②施策取組み事例紹介

- ・平成29年度の各機関の取組について
- ・タイムライン作成に関する報告（江北町、武雄市）

③その他

会議状況



4. 主な意見・コメント等

【平成29年度の各機関の取組について】

- ① ボランティアセンターの運営ノウハウなど朝倉水害から学んだことを整理し、共有してほしい。
- ② 地域福祉計画や男女共同参画基本計画、障害者福祉計画などに記載されている防災に関する内容を地域防災計画の中に組み入れ、要配慮者等に対する防災対応を明確に位置づける必要がある。
- ③ 高齢者は、テレビのデータ放送を活用して防災情報を収集されている。住民が自分で自分の命を守るための様々な情報をテレビのデータ放送を介して収集でき、共助に活かせるような仕組みづくりが望まれる。
- ④ 地域住民から通報される浸水標尺データの一般市民への情報共有方法を検討してほしい。
- ⑤ 技術者がいない自治体もある。災害時に支援する枠組みが必要。
- ⑥ （今回の東峰村のように）移動基地局車等が現地に入れられない場合、自治体と連携してどのように通信網を復旧させていくのか考える必要がある。

【タイムライン作成に関する報告】

- ① 職員の防災意識が高まり、非常に役に立ったと感じた。今回の作成作業で確認した行動項目について、今年の台風時期に活用して、行動項目がこのタイミングでいいのか、見落とししている項目はないかといったことを確認したい。

【その他】

- ① 平成30年は（5年計画の）中間年となる。中間まとめを検討いただきたい。

平成29年度 佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会
(第2回実務者連絡会)

施策取り組み事例紹介

平成30年2月15日

各機関による施策の概要

施策

検討グループ幹事

頁

1. 情報収集・伝達

| | | |
|-----------------------------|----------------|-----|
| 1-1 ラジオによる情報伝達 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | - |
| 1-2 防災情報総合サイトの活用と周知 | 筑後川河川事務所 | 2-5 |
| 1-3 CCTV画像等による冠水及び洪水状況の把握 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | 6-7 |
| 1-4 民間からの情報提供 | 筑後川河川事務所 | - |
| 1-5 高速道路等における道路情報の提供 | 佐賀国道事務所・県道路課 | - |
| 1-6 河川・高潮・道路・防災情報表示装置の設置と活用 | 筑後川河川事務所 | - |
| 1-7 テレビ放送を活用した河川・高潮防災情報提供 | 筑後川河川事務所 | 8-9 |
| 1-8 気候変化のモニタリング | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | - |

2. 広域応援・緊急輸送ネットワーク

| | | |
|----------------------|----------------|-------|
| 2-1 地域高規格道路等と河川堤防の接続 | 佐賀国道事務所・県道路課 | 10 |
| 2-2 通行可能道路の把握 | 佐賀国道事務所・県道路課 | - |
| 2-3 河川管理用通路の確保 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | 11-12 |
| 2-4 防災ステーション、防災拠点の活用 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | 13 |
| 2-5 SA, PAでの接続ポイント整備 | 佐賀国道事務所・県道路課 | - |

3. 連携強化

| | | |
|----------------------------|----------------|-------|
| 3-1 安全・安心な避難所・避難路の整備促進・普及 | 県消防防災課 | - |
| 3-2 防災マップ整備促進・普及と地域リーダーの育成 | 県消防防災課 | - |
| 3-3 実務者連絡会及び幹事会の運営 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | - |
| 3-4 マスコミとの勉強会の実施 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | 14 |
| 3-5 避難・救助に関する計画の検証 | 県消防防災課 | - |
| 3-6 危機管理対策訓練の実施 | 武雄河川事務所・県河川砂防課 | 15 |
| 3-7 救助体制の構築及びボランティア団体との連携 | 県消防防災課 | 16 |
| 3-8 災害時要援護者の避難支援の検証 | 県消防防災課 | - |
| 3-9 リエゾン派遣演習と派遣要領の改善 | 県消防防災課 | - |
| 3-10 民間企業に対する防災行動計画の支援 | 武雄河川事務所・県消防防災課 | - |
| 3-11 タイムライン（防災行動計画）の策定と実践 | 武雄河川事務所・県消防防災課 | 17-18 |

■神崎市防災WEBの周知【神崎市】

○市からのお知らせ・災害情報に加え、佐賀地方気象台・国・県や九州電力等の民間のホームページも併せて確認できる「神崎市防災WEB」の周知を行うため、6月に市報に掲載した。また、9月2日に開催した、神崎市内自治公民館長を対象とした防災研修会時に、チラシ配布及び説明を行った。



【防災情報チラシ】

災害に備えて

【避難情報について】
 災害発生時の安全な避難、避難先での生活維持を助けます。避難情報について迅速に行動してください。

① 第一段階 避難準備情報
 災害発生が予想される地域に、避難準備が促されます。

② 第二段階 避難勧告
 災害発生が予想される地域に、避難が促されます。

③ 第三段階 避難指示
 災害発生が予想される地域に、避難が指示されます。

④ 第四段階 特別警戒
 災害発生が予想される地域に、特別警戒が促されます。

スマートフォンやパソコンで確認し、正確な災害発生時刻や避難場所を確認してください。また、避難先や避難経路についても確認してください。また、避難先や避難経路についても確認してください。

防災情報総合サイトの防災情報は、電話でも確認できます。
 ☎0952-51-1200
 (通話料がかかります。)

メールでも確認できます。
 メールアドレスは、防災情報総合サイトの「防災情報」ページに掲載されています。

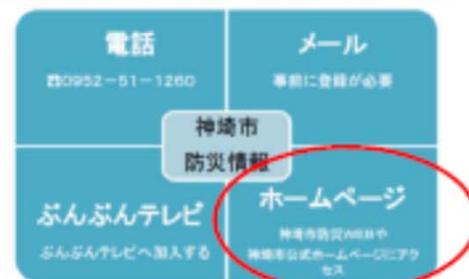
市の防災情報
 ぶんぶんテレビのアプリ
 文字情報や録音で確認できます。

ぶんぶんテレビのアプリ
 ホームページでも確認できます。
 防災情報総合サイトの「防災情報」ページに掲載されています。

【6月市報抜粋】

対策2 情報収集の手段を確認しておく

命を守るためには、正しい情報の入手と早めの避難が必要です。情報収集手段としてテレビ・ラジオはもとより、防災メールの登録・テレホンサービスの情報の活用をお願いします。災害が発生する危険性が高まった場合に、災害に対応した避難情報をお知らせします。自宅や学校、職場などにどのような危険があるのか、避難場所はどこなのかなど、あらかじめ確認・認識しておき、いざという時の避難行動について家族やご近所で考えておきましょう。



■神崎市防災WEB(平成24年4月より)

【成果】

- 出水期に「神崎市防災WEB」の周知が行えたため、市民は必要な時期に必要な情報が入手できるようになった。
- 神崎市内53地区の公民館長に対しては、詳細な説明が行えたことにより理解が深まった。

【課題】

- 「神崎市防災WEB」の周知は行ったが、どれだけの人が活用されるか分からない。できるだけ多くの方に活用して頂くため、防災出前講座等で詳細な説明を行って行く必要がある。

【1.情報収集・伝達】

1-2 防災情報総合サイトの活用と周知

■防災気象情報の改善【気象台】

改善 I 危険度を色分けした時系列

気象警報・注意報の文中に文章で表現・提供してきた事項を、**危険度に応じて色分けをした時系列の表形式**により視覚的に把握しやすい形で提供。（平成29年5月17日から気象庁HPに掲載）

現状

平成29年6月〇日 11時00分 佐賀地方気象台発表

佐賀市 【発表】大雨（土砂災害、浸水害）、洪水警報
高潮注意報
【継続】暴風、波浪警報

土砂 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで
浸水 警戒期間 13日夕方から 13日夜遅くまで
注意期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
雨のピークは13日夜のはじめ頃
1時間最大雨量 80ミリ

洪水 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで

風 警戒期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
注意期間 14日明け方まで

陸上 警戒期間 14日明け方まで
海上 警戒期間 14日明け方まで
波 警戒期間 14日明け方まで
注意期間 14日明け方まで
ピークは

警報に切り替える
可能性に言及した
注意報の強調

改善後

平成29年6月〇〇日 11時00分 佐賀地方気象台発表

佐賀市 【発表】大雨（土砂災害、浸水害）、洪水警報
高潮注意報
【継続】暴風、波浪警報

| | | 今日 | | | | | | | | |
|----|----------|------|-------|-------|-------|------|-----|-----|-----|------|
| | | 9-12 | 12-15 | 15-18 | 18-21 | 21-0 | 0-3 | 3-6 | 6-9 | 9-12 |
| 大雨 | 雨量 (mm) | 10 | 30 | 50 | 80 | 50 | 30 | | | |
| | (浸水害) | | | | | | | | | |
| | (土砂災害) | | | | | | | | | |
| 洪水 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 風 | 陸上 (m/s) | 15 | 20 | 20 | 25 | 20 | 20 | 15 | 12 | 12 |
| | 海上 (m/s) | 20 | 25 | 25 | 30 | 25 | 25 | 20 | 15 | 15 |
| 波浪 | (m) | 4 | 6 | 6 | 8 | 6 | 6 | 4 | 4 | 3 |
| 高潮 | (m) | 0.6 | 0.6 | 1.3 | 1.8 | 1.8 | | | | |

量的予想から
ピークを判断

改善Ⅱ「警報級の可能性」の提供

(平成29年5月17日から気象庁HPに掲載)

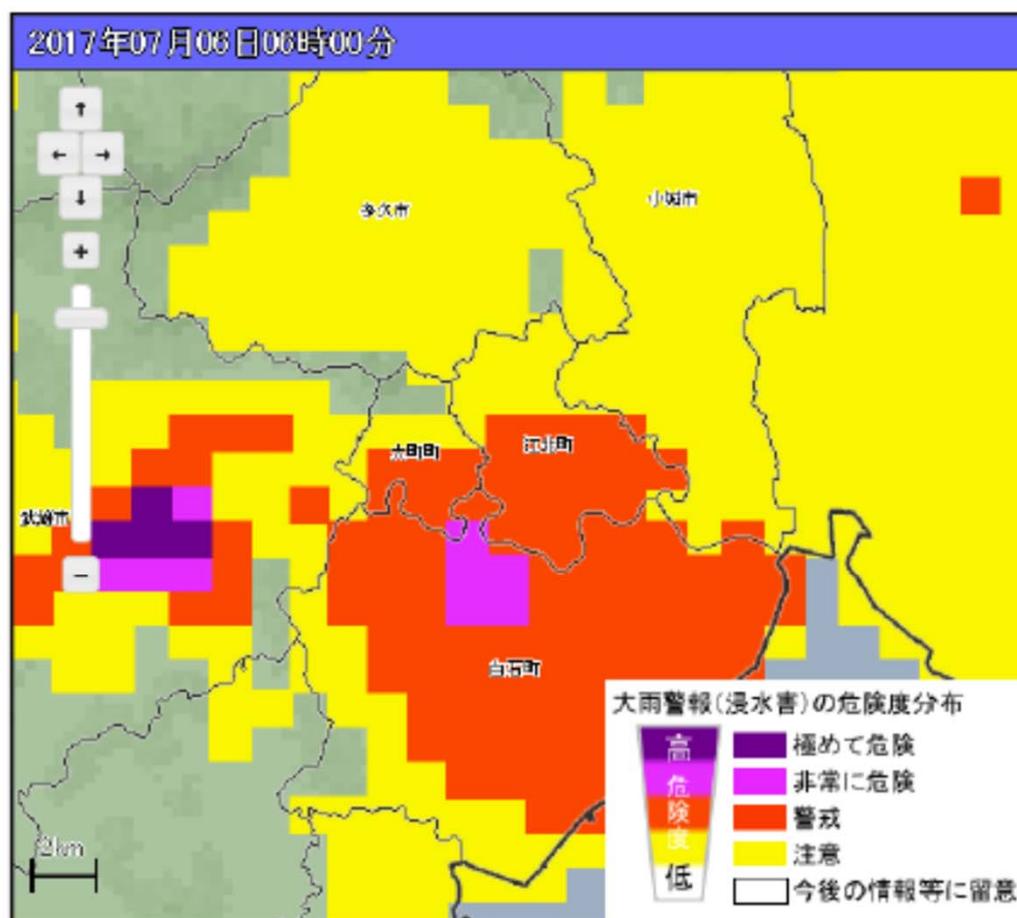
- 夜間の避難等の対応を支援する観点から、可能性が高なくても、「明朝までに警報級の現象になる可能性」を夕方までに発表
- 台風等対応のタイムライン支援の観点から、数日先までの警報級の現象になる可能性を提供

| 日付 | | 明朝まで | 明日 | 明後日 | (金) | (土) | (日) |
|-------------|---|------|----|-----|-----|-----|-----|
| 警報級の 可能性 | 雨 | 中 | — | — | 中 | 高 | — |
| | 風 | 中 | — | — | 高 | 高 | — |

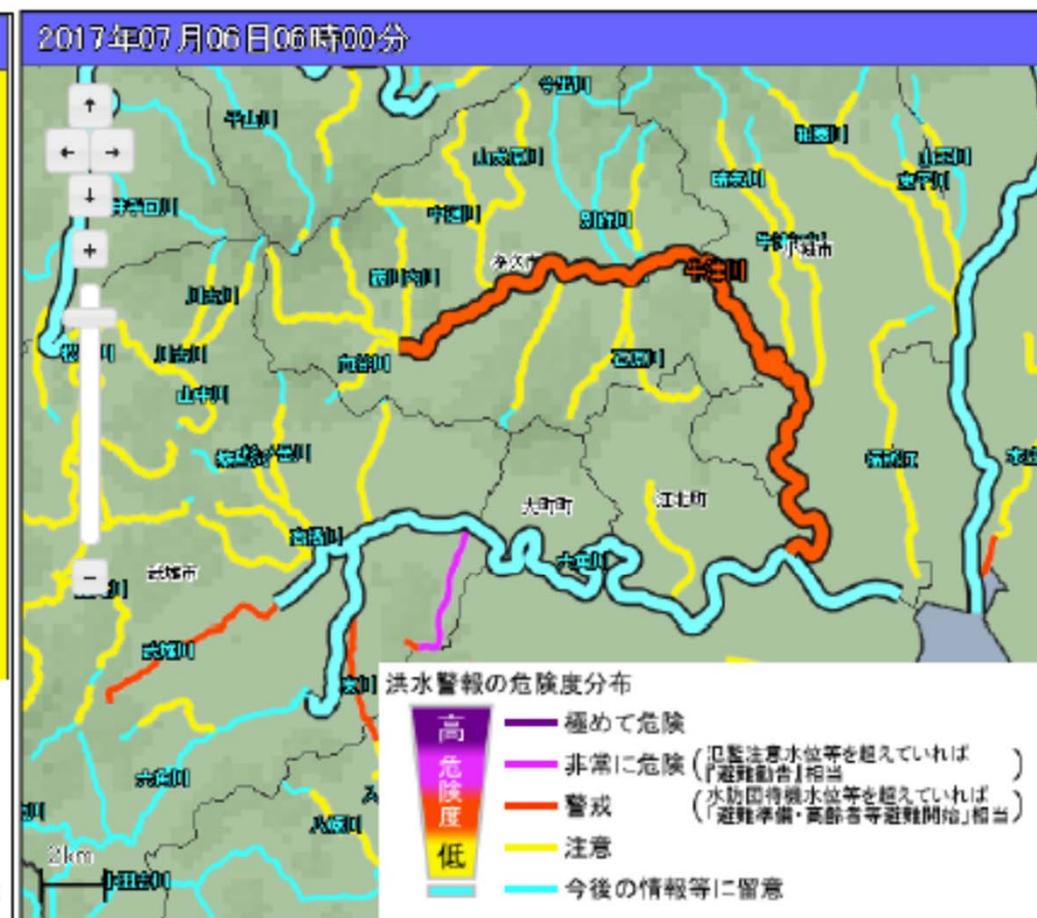
改善Ⅲ メッシュ情報の充実・利活用促進

大雨警報(浸水害)・洪水警報等を発表した市町村内においてどこで実際に危険度が高まっているかを確認できる**危険度分布の予測の提供**
(平成29年7月4日から気象庁HPに掲載)

大雨警報(浸水害)の危険度分布



洪水警報の危険度分布



■河川水位情報の公開【佐賀県】

- 水位周知河川を対象に河川監視カメラを設置。（準備中）
- 平成29年度は、近年出水で氾濫危険水位や避難判断水位を越えた河川から順次設置予定。
- テレメータ化している県管理河川の水位情報を一般向けに公開することで、水防管理団体が行う避難勧告等の発令や住民自らの避難判断への活用が期待される。（準備中）

佐賀県水防情報

■水位計増減表



| 市町名 | 現在 | 将来 | 増減 |
|------|----|----|----|
| 佐賀市 | 29 | 35 | 6 |
| 唐津市 | 6 | 12 | 6 |
| 鳥栖市 | 3 | 4 | 1 |
| 多久市 | 4 | 5 | 1 |
| 伊万里市 | 5 | 11 | 6 |
| 武雄市 | 4 | 9 | 5 |
| 鹿島市 | 3 | 6 | 3 |
| 小城市 | 4 | 5 | 1 |
| 嬉野市 | 1 | 4 | 3 |
| 神埼市 | 7 | 8 | 1 |
| 計 | 66 | 99 | 33 |

| 市町名 | 現在 | 将来 | 増減 |
|-------|----|-----|----|
| 吉野ヶ里町 | 1 | 2 | 1 |
| 基山町 | 1 | 2 | 1 |
| 上峰町 | - | - | - |
| みやき町 | 2 | 5 | 3 |
| 玄海町 | - | 1 | 1 |
| 有田町 | 2 | 5 | 3 |
| 大町町 | - | - | - |
| 江北町 | - | - | - |
| 白石町 | 2 | 2 | - |
| 太良町 | - | 1 | 1 |
| 計 | 8 | 18 | 10 |
| 合計 | 74 | 117 | 43 |

■成果

- H30年出水期前までを目標に、県管理河川の水位情報を一般向けに公開。
- 「中小河川緊急治水対策プロジェクト」に基づき、危機管理型水位計設置について検討を開始。

■今後の予定

- 河川監視カメラ、危機管理型水位計の早期設置。

■量水標設置【佐賀県】

- 住民にわかりやすく水位情報を示すための水位レベル表示（量水標）を設置。
- 平成28年度より水位周知河川を対象に距離標を設置。
- 距離標に設置箇所の海拔を併記することで、避難行動等への活用が期待される。



▲ 秋光川 [飯田橋] (鳥栖町)



▲ 伊万里川 [岩栗橋] (伊万里市)



小学校近くの量水標では、子供たちにわかりやすいよう工夫。

▲ 巨勢川 [学校橋] (佐賀市)

■成果

- 佐賀江川など県が管理する14河川20箇所で量水標を設置。(平成29年度末完了予定)
- 河川の水位状況を容易に認識することができ、水害リスクに対する意識啓発が行えた。

■今後の予定

- 水防管理者と意見交換を行い、住民の目につく箇所への量水標設置についてさらなる検討を行う。

■ケーブルテレビによる防災情報の発信【武雄市、(株)Cable One】

- 屋内にいと雨や風の音などで屋外スピーカーの放送が聞こえなかったり、防災行政無線を聞き逃すことが多いという問題があった。この問題を解決するため、(株)Cable Oneでは、武雄市の防災音声情報をテレビのデータ放送とスマートフォンアプリに同時配信を平成29年6月21日より開始。
- テレビ放送では、データ放送にてスマートフォンアプリと同じメニューも文字情報にて繰り返し確認できる。

【テレビでの視聴方法】

全国初の取り組み ※1

- 1 防災無線(気象警報・避難勧告・避難指示)が流れた際、地上11チャンネル(ケーブルワン)を選択下さい



※1 防災行政無線音声のデータ放送リピート再生及びアプリでの再生

- 2 データ放送画面で、リモコンの青ボタンを押す



- 3 音声が再生されます(リピート再生)
*途中からの再生の場合、繰り返し再生しますのでそのままお待ち下さい

[テレビのデータ放送では、過去の災害情報も確認できる]

【サービスの特徴】 ※(株)Cable Oneホームページより抜粋し編集

- ケーブルワンの回線に接続しているテレビであれば視聴可能。(データ放送の地域設定を「武雄市」に設定する必要あり)
- 防災音声情報放送時に自動画面表示
- 防災音声情報が放送された際に強制自動表示されるため、防災無線が放送されたことに気付かなくても、情報があることが分かる
- 繰り返し再生で情報を確認(情報登録後120分間繰り返し音声を再生)
- スマートフォンアプリと連携しており、外出先でも音声情報を確認できる。(プッシュ通知で、防災情報登録を見逃さない)

■ケーブルテレビによる防災情報の発信【国土交通省、佐賀市、多久市、武雄市、伊万里市、大町町】

- 地上波テレビ（NHK、サガテレビなど）では、災害に関するニュース番組内で河川の映像を放送しているが、武雄市の（株）Cable oneでは、防災チャンネルを設けて随時放送している。また、（株）多久ケーブルメディアでは、災害時に随時放送、視聴が可能となる。
- 平成29年9月から伊万里ケーブルテレビジョン（株）では、伊万里市に「洪水警報」が発令された場合、警報が解除されるまで4画面放送を行う。
- インターネット環境が整備されていない家庭でもテレビで河川の様態を画像で確認することが可能。

| 会社名 | 放送時間 | 放送箇所（画像）数 | 締結年月 |
|------------------|----------|------------------------|---------|
| （株）佐賀シティビジョン | 毎日（時間指定） | 国土交通省6箇所、佐賀市4箇所 | 平成29年6月 |
| （株）多久ケーブルメディア | 災害時 | 国土交通省1箇所 | 平成22年6月 |
| （株）Cable One | 随時 | 国土交通省6箇所、武雄市1箇所、大町町1箇所 | 平成23年1月 |
| 伊万里ケーブルテレビジョン（株） | 洪水警報発令時 | 国土交通省4箇所 | 平成29年7月 |

注）ケーブルテレビ会社設置カメラ数を除く

平成29年9月から放送開始されている伊万里ケーブルテレビジョン（株）の放送画像（イメージ）



2. 広域応援・緊急輸送ネットワーク 2-1 地域高規格道路と河川堤防の接続

■有明海沿岸道路と六角川の接続【佐賀県、国土交通省】

- 洪水や高潮災害が発生した場合の緊急輸送路の確保として、六角川堤防と佐賀福富道路（有明海沿岸道路）との接続ポイントを整備する。
- 平成28年の熊本地震等の影響で道路損壊したため、六角川に近い芦刈南ICは現在利用できないものの、六角川では河川堤防の補強として堤防天端の舗装と法肩の保護を進めており、佐賀福富道路と六角川堤防を結ぶ経路のうち、牛津川堤防とのアクセス性向上のため路肩部の拡幅と堤防天端の舗装整備を行った。
- 佐賀県は佐賀福富道路の復旧工事を行っており、その復旧を待つて地域高規格道路と河川堤防の接続が機能することとなる。



▲ 佐賀福富道路と六角川までの経路



▲ 将来、市道を改築する際はアクセス性を考慮して拡幅

2. 広域応援・緊急輸送ネットワーク 2-3 河川管理通路の確保

■堤防天端の保護、堤防法尻の補強【国土交通省】

○大規模氾濫対策のための堤防天端の保護、法尻補強などを実施している。

【平成29年度整備予定：3水系】

○天端保護 L = 3.4 km

○裏法尻保護 L = 2.0 km

整備前



▲ 整備状況六角川水系六角川（右岸23k000付近）

■次年度の予定

○未整備箇所について、引き続き予算確保及び整備を行っていく。

2. 広域応援・緊急輸送ネットワーク 2-3 河川管理用通路の確保

■対空標示（ヘリサイン）の整備【国土交通省】

- 地震・出水等の災害時に上空から河川の被災状態を把握する際、位置の特定が迅速に確認でき、また、河川を防災ヘリコプターやドローンなどにより、上空から撮影したカメラ映像の位置を速やかに特定するため、各河川の堤防（舗装箇所）に河川名や距離標を標示している。
- 大規模災害時における他地整からの応援、消防等機関の防災ヘリコプターなども目標物として利用できることを考慮し、必要に応じて橋梁名等の施設名を標示している。

| | | | |
|-------|-----------|----------|----------------|
| 六角川水系 | 距離標 37箇所、 | 河川名 5箇所、 | 施設名（橋梁名含む） 9箇所 |
| 嘉瀬川水系 | 距離標 9箇所、 | 河川名 1箇所 | |
| 松浦川水系 | 距離標 8箇所、 | 施設名 1箇所 | |



▲ 距離標の整備例（松浦川水系松浦川, 右岸4k）



▲ 河川名の整備例（嘉瀬川水系嘉瀬川, 左岸2k）

2. 広域応援・緊急輸送ネットワーク 2-4 防災ステーションの活用

■水防資材の搬入など復旧に関する活用シナリオの作成【国土交通省】

○防災ステーション活用シナリオ作成の一環として、備蓄している水防資材「シェルトン」の設置訓練を実施、設置の際の留意点や規格による設置方法の違いなどを確認

○武雄河川事務所及び筑後川河川事務所の協力企業の技術者と職員合わせて約120名が参加

※シェルトンは、高強度ジオグリッドをマットレス状に組み立て、中に石を充填して設置する長尺マットレス工法



▲ 端部の編み込み訓練



▲ 吊り上げ治具の取り付け訓練



▲ 吊り上げ治具の点検状況



▲ クレーンによる設置訓練

3. 連携強化

3-4 マスコミとの勉強会の実施

■マスコミと協働した住民への的確な情報提供【佐賀地方气象台、佐賀県、佐賀市、報道機関、国土交通省】

- 平成29年度は2回開催
- 1回目は、出水時の情報発信（記者発表）について意見交換を実施
- 2回目は、武雄河川事務所が管理する施設（2カ所）を視察後、意見交換を実施

第1回（平成29年5月16日）

【内容】

- 防災情報の受発信方法の紹介
- 水防に関する用語の再確認 など

【主な意見】

- 記者発表資料について“分かりやすくなっている”という意見の一方で“水位経過グラフを追加してほしい”“観測所や地名に読み仮名を追記してほしい”などの意見が出された。

参加団体（報道機関）

| | |
|-------------|----------------|
| 共同通信社 | NBCラジオ佐賀 |
| 佐賀新聞 | エフエム佐賀 |
| 読売新聞社 | (株) ケーブルワン |
| (株) サガテレビ | (株) 多久ケーブルメディア |
| 日本放送協会佐賀放送局 | 佐賀シティビジョン(株) |

第2回（平成30年1月31日）

【内容】

- 巨勢川調整池、嘉瀬川ダム視察
- 意見交換

【主な意見】

- 映像（テレビ）関係
 - 伝える情報が多いと優先度付けや選別するのに大変である。
 - 強調して伝えたい情報があれば、連絡（電話など）してほしい。L字（文字情報）に表示することが可能である。
- 音声（ラジオ）関係
 - 地域密着を目指して、日常的に防災に対する心構えをしてもらえるよう、事前準備を意識するような放送をしている。

参加団体（報道機関）

| |
|----------------|
| (株) サガテレビ |
| 日本放送協会佐賀放送局 |
| NBCラジオ佐賀 |
| エフエム佐賀 |
| (株) ケーブルワン |
| (株) 多久ケーブルメディア |

3. 連携強化

3-6 危機管理対策訓練の実施

■緊急消防援助訓練九州ブロック合同訓練【各機関】

○佐賀県で大規模地震（最大震度6強）及びこれによる津波や局地的な豪雨による土砂災害が多発的に発生したことを想定した緊急救助活動訓練を佐賀県庁を災害対策本部とし、県内17カ所で実施。

○実施日 11月11日～12日

○参加・協力機関

陸上自衛隊、九州地方整備局、佐賀県警察本部、九州各県DMAT、NPO法人九州救助犬協会、佐賀大学医学部、国立病院機構佐賀病院、北九州空港、九州佐賀国際空港、（株）富士建、（株）島内エンジニア、西部電気工業（株）

○参加人数 約400人（地域住民含む）

○実施場所 佐賀県庁など県内17カ所

○訓練内容 被災地初動対応訓練など9項目

【主な訓練状況】

▼照明車（九州地方整備局所有）による夜間訓練支援状況（11日）▼



▼映像伝送状況（12日）



▼本部テント内



■「災害時における神崎市と神崎市社会福祉協議会の協力に関する協定」の締結【神崎市】

○熊本地震を受け、災害ボランティアセンターの運営や防災訓練などで協力し、災害時のスムーズな支援態勢づくりを目的として協定を締結。（平成29年4月20日）



■主な協定内容

- 災害発生後の災害ボランティアセンターの開設・運営・活動拠点
- ボランティア養成のための研修・講習会の実施
- 他団体との合同訓練の実施

■タイムラインの策定【江北町、気象台、国土交通省】

- 8月、10月の2回に分けて、タイムラインの作成会議を実施した。
- 1回目は山田恭輔町長をトップに協議を行い、災害時の行動を抽出し行動に要する時間や関係部局との連携等を検討した。
- 2回目では、1回目の議論内容を参加者で確認し、タイムラインの一本化を図った。

【実施日】 8月24日、10月30日

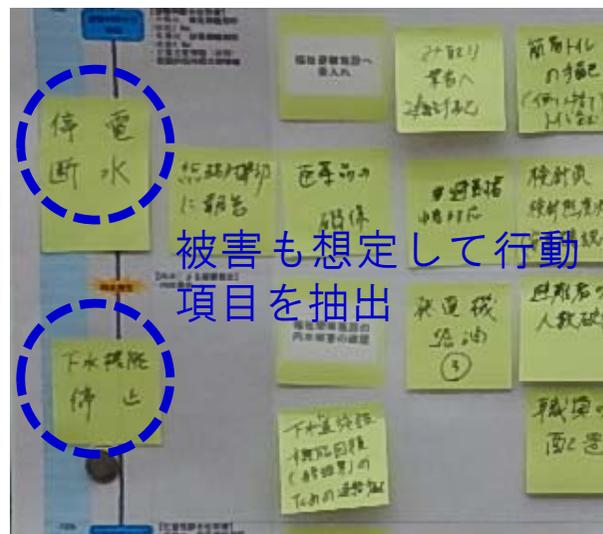
【参加人数】 延べ約60名

【参加者の主な意見】

- 避難所の運営や堤防決壊後の対応について、職員全員で対応を考えていきたい。
- 実際の災害時に限られた人員で、機能的に人を動かしていけるか検討が必要である。
- 災害の規模を想定するのが難しく、実際の災害時に動けるのかが課題だと感じた。
- 樋門等操作員の避難指示の判断が難しい。武雄河川事務所と連携していきたい。
- 教育委員会の方と議論する場を設けて、災害時の連携について話をしていきたいと思う。



▲ グループワーク



▲ やるべき行動を整理



▲ 共有図面に各対策部の情報を集約

■タイムラインの策定【武雄市、気象台、国土交通省】

○11月でタイムラインの作成会議を実施した。

○会議は2日間を4回に分けて実施、ほぼ全職員（延べ約300名）が参加した。

【実施日】 11月21日～22日
（両日ともに午前と午後、計4回）

【参加人数】 延べ約300名

【参加者の主な意見】

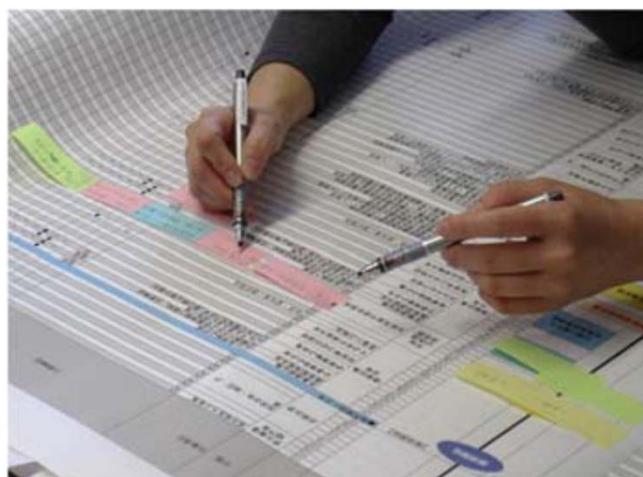
- 内水が始まり道路が冠水すると避難等の移動が困難となる。事前の行動が必要であることを確認できた。
- 各避難所にどれくらいの物資が必要か、いつの段階で調達が必要かを検討しておく必要がある。
- 長期災害に備えて、職員全体のローテーションの作成が必要であり、非常食等の備品も必要である。
- 災害が発生する前に何をすべきかを確認できた。次の梅雨時期に今回の成果を活かしたい。



▲ 各対策部の発表の様子



▲ 行動項目を抽出



▲ 変更・追加する箇所を明示



▲ 時系列に沿って行動項目を確認